


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円

No.666

- ★「野間読書推進賞」候補者推薦募集(2・4頁)
- ★「上野の森 親子ブックフェスタ」開催(3頁)

会員の購読料は
会費の中に含まれる



●図書館の現場から

子どもは、人と関わりながら 本が好きになっていく

— コロナで気づいたあたり前のこと —

一般社団法人
日本子どもの本研究会 会長

しろたともこ
代田知子

埼玉県・三芳町立図書館に勤めてかれこれ38年。今も後輩司書たちとともに、子どもたちに本を手渡している。4か月児へのブックスタート、2歳6か月児へのブックスタートプラス、乳幼児へのおはなし会、小学生対象の「としまかんくらぶ」読み聞かせとブックトーク、小中学校の学級に向くブックトーク。目の前の子どもたちにおすすめの本を読んだり紹介したりすると、こちらの熱意が伝わって、「おもしろい」「読みたい」と言ってくれる。これがうれしくて、司書は読み聞かせやブックトークやストーリーテリングの腕を磨く。

2020年3月、感染拡大防止のため他の図書館同様、うところが、コロナが来た。ちも長期休館に突入。5月中旬に、「電話やインターネット予約した本を窓口で渡す」サービスだけは再開した。しかし、本を借りたがっていた自宅待機中の子どもたちから予約が入らない。なぜ？と自問し、このサービスが子どもに向かないことに気づいた。大人は、新聞やネットで見つけた読みたい本を予約する。でも、子どもには、前もって読みたい本がないことが多い。たとえあっても、書名を覚えていない。カウンターで「これこれこういう本」と伝え、職員に聞きながら目当ての本を予約する。人との関わりが欠かせないのだ。

また、電子書籍の有効性は多々あるが、まだ本を読むことに慣れていない子どもには、出会う本が紙の本だといふことも大切なのではないかと、コロナ禍の体験から思うようになった。長期休館から3か月ぶりに図書館を開いたその朝、小学2年生の女の子がふたり、図書館に飛び込んできた。「今日から自分で選べるんですよ？本にさわっていいんでしょ？お友だちと一緒に本が探せるなんて、今日は最高の日！」そう言って、絵本コーナーに駆けていった。

多くの子どもは、学校で友だちが読んでいるのを見たり、図書館でぶらぶらと手当たり次第に本をさわったりしながら読みたい本を見つけ、迷っている子に声をかけ、好みに合いそうな本を「これは？」と渡すと、パッと本を開き、字の大きさや絵を確かめる。選んだ本をうれしそうに借りて帰る彼らを見ると、まずはモノとしての本に愛着を抱き、そこから本好きになっていくのだと感じる。じつは、私たちは長期休館中、子どもにもオススメ本を紹介するブックトークのオンライン配信に挑戦していた。町の子どもたちに、「この本、おもしろいよ。予約すれば借りられるよ」と伝えたかったからだ。しかしこのオンライン配信は、大人には好評だったが、子どもには今ひとつだった。画面越しの顔と声では、パワー不足なのだと思う。図書館や学校などでの読み聞かせやブックトークが再開した今、私は「リアル」の威力に、日々感動している。一冊一冊心を込めて手渡せば、本が苦手だという子どもでも、読んでみようかと思ってくれる。子どもは人と関わりながら本が好きになっていく。デジタル化が進む今こそ、このあたり前のことを忘れずに、紙の本も電子書籍も、どの本をどう手渡すか考えていきたい。

第53回(2023年度)

「野間読書推進賞」

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してまいりました。

この賞は、1969年、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年と2023年にそれぞれ、2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年より、「野間読書推進賞」とあらためました。

本年度もつぎに掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願ひいたします。



野間読書推進賞賞牌

体を再度ご推薦くださってもかまいません。

4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦を5月中に依頼します。

受賞候補者の心当たりがある方は、団体を通してご推薦ください。これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ(<http://www.dokusyo.org.jp>)でご覧いただけます。推薦の参考としてください。

5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用のときは、当協議会にご請求ください。(Word、Excel形式のファイルもごさいいます)。添付資料は返却にも応じます。

6 推薦書類送付先、締切

公益社団法人

読書推進運動協議会

「野間読書推進賞」係

〒101-0005
東京都千代田区神田神保町
1-32 出版クラブビル6階
TEL 03-5244-5270

推薦締切

2023年7月28日(金)消印有効

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に野間読書推進運営事業委員による選考準備委員会にて候補者を絞り、9月中旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

8 選考委員(五十音順)

- 秋本 敏 公益社団法人 日本図書館協会 図書紹介事業委員会 委員長
- 黒木義博 公益社団法人 全国学校図書館協議会 読書活動プロジェクト担当
- 野上 彰 児童文学・文化研究家 一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

10 贈呈式

2023年11月2日(木)

出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、『読書推進運動』執筆者のみなさんなどをお招きします。

昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

2020年より、新型コロナウイルス感染症対策として、贈呈式のみ小規模で開催してまいりましたが、本年は4年ぶりに記念パーティーの開催を予定しております。これまでの受賞者のみなさま、関係者のみなさまのご参加を、心よりお待ち申し上げます。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員



上野の森 親子ブック フェスタ



「おはなし隊」キャラバンカーで本を選ぶ子どもたち



国立科学博物館の恐竜博帰りの親子も？
大人気の黒川みつひろさん

5月4日(例)・5日(例)東京都台東区の上野恩賜公園で「上野の森親子ブックフェスタ2023」(主催)子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催された。



読者と出展者とのふれあいがフェスタの魅力

今年から会期を2日間とした。今年からの会計は前回に引き続き、キャッシュレス決済のみとし(入場時に図書カードを現金で購入可能)、各ブース近くにレジを配置することで混雑緩和を目指したが、4日は通信環境が悪く、決済が進まない時間帯があった。



オリジナルポップをつけたブースも

が、64の出展者が約3万7000冊の本を出品し、謝恩価格で児童書を販売する「子どもブックフェスティバル」は大盛況。家族連れや保育・教育関係者などが熱心に本を選んだ。各ブースでは、出展者が一冊一冊の「おすすめポイント」を来場者にアピールする姿も多く見られた。



「散歩がてら通りかかった」とよたかずひこさんは即席サイン会!

レジでの会計は前回に引き続き、キャッシュレス決済のみとし(入場時に図書カードを現金で購入可能)、各ブース近くにレジを配置することで混雑緩和を目指したが、4日は通信環境が悪く、決済が進まない時間帯があった。

ど、新たな課題も浮上した。場内各出展者のブースやイベント専用テントでは著者のサイン会、おはなし会、ワークショップなどが随時行われ、講談社「おはなし隊」キャラバンカーでは自由読書も楽しめた。5日には近隣の国立国会図書館国際子ども図書館で、作家・中島京子さんの講演会『夢見る帝国図書館』と子どもの本」が、国際子ども図書館とブックフェスタ実行委員会の共催で行われた。国際子ども図書館をモチーフにした『夢見る帝国図書館』(文春文庫)の執筆エピソードを現場で聞く機会に、多くの参加者が集まった。天候に恵まれ、2日間の来場者数は約2万6300人、本の売り上げは約3150万円となった。



ワークショップのブースでは、子どもたちが熱心に作品作り



小説『夢見る帝国図書館』の舞台、国際子ども図書館での中島京子さんの講演会



今年も、素晴らしい団体・個人の方の

野間読書推進賞への ご推薦をお願いします！



例年、全国から多くの候補者ご推薦をいただく「野間読書推進賞」の推薦が、今年も始まります。昨年の選考委員会で取りあげられた点を、ご紹介しますので、推薦書作成の参考としてください。

○活動内容、広がり、特徴がわかる推薦書・資料を！

「地域で初めての読書会」「地域読み聞かせのバイオニア」などの特徴、候補者の活動が地域にもたらした影響・変化などを、ぜひ、ご紹介ください。また、その地域ならではのユニークな活動は、活動の背景も含めてご紹介いただくと、たいへん参考となります。資料の返却にも応じますので、周年記念誌などの貴重資料もぜひ、ご提供ください。

○前回推薦との変化を教えてください！

野間読書推進賞は再推薦もOKです。再推薦の際、前回の推薦時からの変化（会員の増加、活動場所の増加など）があった場合は、わかるようにしてください。

○個人での推薦も「検討を！」

ご推薦いただいた団体のなかには、代表者の方が他の団体を立ちあげたり、ネットワーク作りにも活躍されているなど、拔きこんでた

活動をされている場合があります。推薦資料によっては、推薦されている団体と代表者関連団体の活動の区別がつきにくく、選考会では毎年、議論となります。

読書推進活動に携わる方は「仲間といっしょに読んできた」「手を携えて歩んできた」と、個人の活動を表に出すことを遠慮される傾向にあります。個人の候補者としてのご推薦も、検討してください。

○著作権の扱いを明示してください！

活動実績として「絵本をもとにしたパネルシアター」「映写機を使つての読み聞かせ」などをいただくこともあります。著作権者の使用許諾が必要な活動内容の紹介に際しては、推薦書に一筆、「著作権使用許諾を得ている」と入れていただけますと、賞の運営者として、とてもありがたいです。

野間読書推進賞にいただくご推薦はどれも素晴らしい、選考委員も選ぶのに毎年、苦勞をしています。これからも、全国から推薦される候補者の活動に力と励ましをもらいながら、運営していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

「子ども読書の日」記念フォーラム

子どもが本を楽しむための ヒントを全国で共有

4月23日(日)、東京都渋谷区国立オリンピック記念青少年総合センターで、『子ども読書の日』記念子ども読書活動推進フォーラム(主催「文部科学省/国立青少年教育振興機構」)が開かれた。

今年の文部科学大臣表彰は、子どもの読書活動優秀実践校が130校、子どもの読書活動優秀実践図書館が46館、子どもの読書活動優秀実践団体(個人)が46団体4個人。式典では、表彰代表受賞者に賞状が授与された。

特別対談「子どもが自ら本を読み始めるとき」では、NHK『100



会場ホワイエには表彰代表の活動紹介が展示された

分de名著』プロデューサーの秋満吉彦さんと能楽師の安田登さんが登場。「本を読まなかった」というふたりが本好きになつたきっかけや、安田さんのファンタジー小説『魔法のほね(亜紀書房)』を紹介しながら、「読むことを強制しない」「読書を導く周囲のサポートが大切」「物語を人ごととしてではなく、自分ごととして楽しむことが、読書の魅力」などと語りあった。また、安田さんは「読むことは声に出すことが基本」と、能の読み方のリズムで夏目漱石の『夢十夜』の一節を披露した。

事例発表では、表彰代表受賞者の宮城県石山高等学校(優秀実践校)、静岡県清水町立図書館(優秀実践図書館)、栃木県の朗読ボランティア「ひばりの会」(優秀実践団体(個人))が、読書活動の内容を紹介。会場からの質問にも答えた。

代表以外の表彰受賞者には、事例発表後の表彰式で、それぞれに賞状が手渡された。

■JBBYが図書巡回展の開催を募集

世界各地から選ばれた子どもの本を 地元で楽しむチャンス！

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)は、図書展示会「世界の子どもの本展」国際アンデルセン賞とIBBYOナリスト2022の開催者を募集している。

この展示会は、国際児童図書評議会(IBBY)が2022年に選出した国際アンデルセン賞受賞者、フランスのマリー・オード・ミュライユさん(作家賞)、韓国のスージー・リーさん(画家賞)の作品と、IBBYオナーリストに選ばれた児童書で構成。53の国と地域から選ばれた47言語の図書



図書館、美術館でなくても展示可能！
(写真は愛知県・南栄住宅集会所)

約180冊にキャプションをつけ、解説パネル、日本語版カタログ(閲覧用など)とセットで貸し出される。「小さなノーベル賞」とも呼ばれる国際アンデルセン賞は2年に一度選ばれる、子どもの本の国際的な賞。IBBYオナーリストは、各国IBBY支部が「世界の子どもたちに読んでほしい自国の本」として推薦した図書を2年に1回紹介している。

巡回期間は2023年7月～2025年3月末までの2年間。展示会場を用意でき、責任を持って開催できる方ならだれでも申しこめる(有志の個人・グループでも開催可能)。貸出期間は1会場2週間以内が原則。

貸出にかかる費用や開催にあたっての注意、これまでの開催会場の様子など、詳細はJBBYウェブサイトを確認できる。お問い合わせ・お申し込みは、honten@jiby.orgまで。
●JBBYウェブサイト
<https://jiby.org>



■紙芝居文化の会 講座

紙芝居を学ぶ講座が九州、大阪で開催！

紙芝居文化の会は、現在、この夏に九州で開催される「紙芝居連続講座」の受講生を募集している。

●紙芝居連続講座 in福岡・中津 講座内容

- 第1回「紙芝居の魅力とすてきな演じ方」講師 松井エイコ
- 第2回「紙芝居の歴史と作品の選び方」講師 日下部茂子
- 第3回「絵本と紙芝居のちがいは？」講師 二こめられたもの

野坂悦子

毎回講座終了後に実演体験あり。

講座日程、会場

in福岡

6月17日(土)、7月8日(土)、9月2日(日) 大野城まどかびあ(福岡県大野城市)

in中津

6月18日(日)、7月9日(日)、9月3日(日) 小楠コミュニティセンター(大分県中津市)

定員はそれぞれ40名。

また大阪では、紙芝居講座が開催される。

●紙芝居講座 inおおさか

テーマ「よっこそ紙芝居の世界へ」紙芝居の特性と魅力」講師 酒井京子、野坂悦子
開催日・会場
8月12日(土) 大阪市中央公会堂
定員は80名。

いずれも参加には事前の申し込みと受講料・参加費が必要。詳細は、紙芝居文化の会まで。
●紙芝居文化の会ホームページ
<https://www.kamishibai-itakaja.com/>

■児童図書館研究会 年報発行

コロナ前・コロナ中の子どもの読書環境を特集

図書館員、子ども文庫関係者などの、子どもの文化、子どもの本、子どもを知ろうという会員で構成されている児童図書館研究会が編集した『年報 こどもの図書館 2022年版』が、日本図書館協会より発行された。

巻く状況と児童サービスの動向、学校図書館の動向などがまとめられている。

2017年～2019年のコロナ前、2020年～2021年のコロナの渦中という、まったく状況の異なる2つの期間が含まれていることから、「コロナ禍と子ども」を特集テーマとし、各現場の状況、新しい試みや工夫を報告。また、この5年間で急速に普及し

この年報は、5年に一度発行されており、今回の2022年版には2017年から2021年までの日本における児童図書館を取り



『年報 こどもの図書館 2022年版』

た電子メディアと電子書籍についても取りあげられている。

そのほか、この期間の児童図書出版の動向や、発表された児童図書館・児童図書関連文献目録なども紹介されている。

購入は書店および日本図書館協会ホームページより可能。

●日本図書館協会ホームページ
<https://www.jla.or.jp/>

優良読書グループの歩み (5)

2022年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

サークル・シユガー

代表者 上野 隆子

富山県氷見市

富山県読書推進運動協議会
〈推薦〉

「こんにちは」「元氣け」

月に一度、私たちサークル・シユガーの仲間は、氷見市立図書館の会議室に集まります。1992年、11名の会員で発足したこの会は現在10名、みんなおしゃべり好き。当初からのポリシーである、
①気軽に楽しく参加できることをモットーとし、かならずしも読書にこだわらない。

②仲間との語らいを大切に、話題の逸脱をおそれない。
③テーマについて自由に意見交換し、発言の巧拙や勉強の程度とは問題としない。
を引き継ぎ、毎回にぎやかに進行していきます。

読書会なのに読書にこだわらな

(順不同)

いと変な話と思われるかもしれませんが、本の感想や意見を述べているうちに脱線し、日々の生活や老後などの話になり、次々と話が広がります。家族のこと、健康のこと、ひいては政策への意見云々。けれども最後に振り返ってみれば、意外にテキストにそつた内容になっているという具合です。

そういうわけで、知らないからとか勉強していないからと考えて黙りこんでしまうということはなく、思うことを自由にぎつくばらんにしゃべり、毎回そんなメンバーの話から知識を得たり活力をもらったりしています。

ところで、3年ほど前までは、適当に記録や筆記、進行などの係を決めていましたが、現在は会員を3グループにわけ、2か月ごとの当番制にしています。ねらいは「感想は言うが易し、書くは難し」を実感するためでありました。喋るのは得意でも書くのは……。当番の月は頭がフル回転し、頭の

体操になります。

「読書会を作ろう」の声に賛同した、図書館を利用する本の大好きな女性たちが集まって発足してから30数年、当初からの仲間も半数近く。最初のころは「旅行・忘年会・新年会など、楽しいことは欠かさず行う」と、春の旅行と折々の宴会は欠かしたことがなかったそうです。近年は年に一、二度食事会をしていましたが、それもコロナ禍で中断となつてしま残念です。

読書会ではいろいろなジャンルのテキストが提供され、自分では手に取らない本にもふれることができ、新鮮な感覚にも出会えます。これからも会員同士しつかりと絆

を持ちながら、いろいろな本に出会える喜びに感謝しつつ、楽しく続けていけたらと思います。

甲斐市立敷島図書館ボランティアライライの会

代表者 大島 純子

山梨県甲斐市

山梨県公共図書館協議会
読書推進研究部会
〈推薦〉

「ライライの会」は1997年に敷島町立図書館(現・甲斐市立敷島図書館)で開催された「読み聞かせと絵本の講座」を受講した有志が集まり、発足しました。以来、図書館で定期開催されている未就園児向けのおはなし会や、年2回の図書館イベントをはじめ、地域のニーズに則した子ども向けのおはなし会に多数、携わってきました。25年の活動期間のなかでメンバーは代替わりをしつつありますが、子どもたちと本の架け橋になりたい」という発足当初のモットーは、今でも大切に受け継がれています。絵本を読むことの楽しさを知ってもらい、子ども時代にとくさんの良書に出会ってほしいという願いをこめて、おはなし会



おしゃべりと本を楽しむ仲間たち

で読む絵本の選書は参加者の年齢や季節感に配慮し、ていねいに

うよう、心がけています。
また、絵本の研究会に通つたり定期的に勉強会を開くなど、必要な知識の習得と技術の研鑽にも励んでおります。

心をこめて読書した絵本をより楽しんでいただくために、かならずプログラムに取り入れているのが、「手袋人形」と「わらべうた」です。手袋人形は絵本の世界への案内人となつてくれる大切なパートナーと考え、手作りの人形をメンバーそれぞれが10体以上所持していて、場面ごとに使いわけています。おはなし会の最初に手袋人形たちと詩を読んだり季節の歌を歌つたりすることで、「なにか楽しいことがはじまりそうだな」と子どもたちがワクワクした表情になつてくれるのが、なよりの励みです。

また、おはなし会には生後5か月〜1歳の赤ちゃんたちにも多くご参加いただくため、耳やリズムでゆつたりと楽しむことができるわらべうたの時間も大切にしています。赤ちゃんの顔にふれて行う「顔あそび」、体を揺らしてリズムを体感してもらう「体あそび」、シフォン布を使う「布あそび」の3つを組みあわせたプログラムを、季節ごとに内容を変

えながら行っています。コロナ禍
ではなし会が予約制となつた
り、参加人数が限られてしまつた
りと、制約の多い今だからこそ、
あらためてわらべうたのよさが参
加者に伝わるとういなどと、切に
願っています。

今回このような立派な賞をいた
だくことになりメンバー一同、た
いへん光栄に感じております。ま
た、いつも支えてくださり、長引
くコロナ禍とともに闘つてくだ
さっている敷島図書館職員のみな
さまにも、この場をお借りしてあ
らためて感謝申し上げます。これ
を励みに、今後も地域の子どもた
ちの笑顔のためにがんばりたいと
思います。



手作り人形やわらべうたで
わくわくするおはなし会に

えほんとわらべうた プチ・ぶちぶち

代表者 望月美智子

福岡県太宰府市

福岡県読書推進運動協議会

〈推薦〉

私たち「えほんとわらべうた
プチ・ぶちぶち」は、2014年
太宰府市文庫連絡協議会(現・太
宰府市子ども文庫・読書サークル
連絡協議会)主催の「赤ちゃんお
はなし会講座」受講者を中心とな
り、2015年1月に立ちあげた
グループです。このころ、太宰府
市では、乳幼児向けのおはなし会
は開催されていましたが、0・1・
2歳の赤ちゃん向けにプログラム
を組んだおはなし会は少なく、ぜ
ひ、生の声で絵本やわらべうたの
楽しさを伝えていきたいと思いま
した。

同年2月に太宰府市いきいき
情報センターで初めておはなし
会を開き、同年5月から太宰府
市子育て支援センター(現・太
宰府市子育て世代包括支援セン
ター)で月1回のおはなし会を
開催しています。また、同年10
月から太宰府市民図書館内のお
はなしコーナーで月1回おはな

地域の赤ちゃんにあたたかい
声でおはなしをプレゼント



はなし会」も積極的に行ってい
たいです。わらべうたは季節を感
じるものも多く、子育てに忙しい
親と子の日常が少しでも豊かなも
のになればと願いつつ、日本の四
季の豊かき、成長を喜び、大切に
思う気持ちを私たちも感じている
ところです。

立ちあげのきっかけとなった
「赤ちゃんおはなし会講座」で「き
りん文庫かすが」徳永明子さんの
おはなし「声」が育てる「こと
ば」と「ころ」にあつた、「赤
ちゃんに『生きたことば』の喜び
を あたたかい肉声が子ども心の
を育てる」「赤ちゃんおはなし会
の大切さは、地域でともに生きる
喜びを感じ、共感・共生の感覚を
育てる」というメッセージのなか
には、たくさん気づきがありま
した。私たちがつねに心がけるこ
とでもあり、そのことばは気持ち
の支えとなっています。

子どもたちの真剣な眼差し、愛
くるしい笑顔は、私たちが活動を
続けていくうえで、なによりの宝
物です。



■家の光協会読書ボランティア講座

養成・スキルアップの2講座を用意

一般社団法人家の光協会は、「第20回家の光読書ボランティア養成講座」「第17回同スキルアップ講座」をYouTubeで配信する。参加費無料。講座プログラムは以下のとおり。

『養成講座』初心者対象

- ・講演「はじめてみよう 読書ボランティアの魅力を味わおう」
- ・講師 村中李衣 (児童文学作家)
- ・講演「魅力いっぱい！ パネルシニアター」子どもから大人まで楽しめるヒント」講師 松家まきこ (パネルシニアター作家)
- ・実践報告「レッツトライ 読み聞かせクイズ・手遊びを交えたプログラム」講師 J.A.大阪市女性会 読書ボランティアグループ「ループ」

配信期間 7月3日(月)～18日(火)

申込締切 6月23日(金)

『スキルアップ講座』経験者対象

- ・講演「新しい読書推進のカタチ」

配信期間 7月10日(月)～24日(月)

申込締切 6月30日(金)

多様な本との出会いのつくり方
講師 田口幹人 (未来読書研究所)

- ・講演「絵本を共有するコミュニケーション」一人ひとりの子ども言葉を支えるために」講師 圓山哲哉 (言語聴覚士・絵本専門士)
- ・実践報告「子どもたちに「おはなし」の魅力を伝える」ストーリーテリングと読み聞かせの実際」講師 近江八幡おはなし研究会

配信期間 7月10日(月)～24日(月)

申込締切 6月30日(金)

期間中は何度でも視聴可能。下記QRコードより申し込み。



2023年度公益社団法人読書推進運動協議会 定時総会開催のお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協議会では、左記のとおり2023年度の定時総会を開催いたします。

- 一、日時 2023年6月16日(金) 午後3時～4時30分
 - 一、場所 出版クラブビル会議室 (東京都千代田区 神田神保町1-32)
- 03-5577-1151

- 一、議事
 - ・ 第1号議案 2022年度事業報告書と決算報告書承認の件
 - ・ 第2号議案 役員改選承認の件
 - ・ 第3号議案 2023年度事業計画書と収支予算書報告の件
 - ・ 連絡事項

*5月下旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。はがきのご返信と当日のご参加、または委任状のご提出を、よろしくお願い申し上げます。



出版クラブビル (東京・神保町)

事務局報告(4月)

- ☆5日 機関紙「読書推進運動」666号別冊「2022年度読書週間行事報告一覽」入稿
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」666号入稿
- ☆10日 各道府県読書協へ本年度基本データ票の記入を依頼
- ☆10日 機関紙「読書推進運動」666号別冊「別冊校了」
- ☆10日 関部公認会計士・税理士・行政書士事務所と2022年度決算報告書作成
- ・11日 第62回「全出版人大会」共催団体事務局打ちあわせに出席
- ☆12日「2023年度読書週間ポスターイラスト募集」案内を美術系大学・専門学校へ送付
- ☆13日 佐藤潤一監事、竹村和子監事、春井宏之監事による2022年度決算報告についての会計監査(17日)
- ☆14日 機関紙「読書推進運動」666号別冊「別冊」出来
- ☆17日 絵本作家サ・キャビンカンパニーさんと次年度「こどもの読書週間」ポスターについて打ちあわせ
- ・17日 学校図書館整備推進会議総会に出席
- ・17日 伊藤忠記念財団事務局と助成事業について打ちあわせ
- ☆19日「2023年度第1回理事会開催案内を送付
- ・19日「上野の森親子ブックフェスタ2023」運営委員会打ちあわせに出席
- ☆4月23日～5月12日「第65回こどもの読書週間」
- ・23日 文部科学省「子ども読書活動推進フォーラム」出席
- ・25日 第28回「日本絵本賞」(全国学校図書館協議会主催 最終選考会に選考委員として参加
- ☆28日「2023年度第1回常務理事会」開催

編集部 & 事務局のひとこと

●「上野の森親子ブックフェスタ」の講演会「夢見る帝国図書館」と子どもの本」小読の舞台で作者・中島京子さんから直々におはなしをうかがえる、贅沢なひとときでした。

●小説の謝辞にもありましたが、中島さんは「上野図書館八十年略史」(国立国会図書館支部上野図書館発行)を参考にされています。「八十年略史」の行間からは、上野の図書館を「東洋一の図書館」にしようとする奮闘する図書館の人たちの苦勞が立ちのぼってきて、この図書館に通つた文豪たちのエピソードなみにおもしろかったそうです。

●中島さんは「八十年略史」の「西南戦争で図書館の経費が削られた」記述から、「こんな初期から、図書館の人たちは苦勞していたのか」と驚き、その後も日露戦争、日中戦争、太平洋戦争と戦争が続くなか、上野の図書館の建設は止まっても「図書館はずっと開いていた。これはすごいこと」と語ってくれました。

●講演会の直後、「子どもブックフェスタイバル」会場で、今号の巻頭言をいただいた代田知子さんと遭遇。人員が減られたり、貸出数のみで行政内の重要性が判断されるなどの逆境のなかでも、図書館員たちががんばっているのを知ってほしくて、原稿を書いたこと。また、そんな図書館員たちへの応援の気持ちも入っていると、話してくれました。

●明治の帝国図書館から今日まで、図書館員の苦勞と誇りは変わらない。そんな思いを抱き、苦勞はなくなることを祈る、一日でした。(伸)